

## 表町がんぎ劇場

新潟県長岡市

### 【活動概要・効果】

#### ☆雪国特有建築様式「雁木」特徴的な地域景観を活かすまちづくり

○地域固有の資源であり、雪国特有の建築様式である「雁木」に着目し、栃尾表町区の住民と大学生がデザインチームを編成。地域の歴史や風土、風俗など、住民とコミュニケーションを深めながらモチーフを決定し、雁木の計画づくりを行っている。

☆「雁木」が地域に定着し、地域住民による自発的な雁木の作成、保存が促進され、表町地区において調和の取れた美しい街並みが作り出されるようになった。

☆さらに、周辺の街でも雁木が注目され、広い地域での景観の一体性が生まれている。観光資源としても見直されるようになり、街を周遊しながら雁木を楽しむ住民主催のイベント「雁木あいぼ」を開催するに至っている。これにより、住民同士の交流が深まり、さらには、まちづくりに対する住民の意識向上につながっている。



雁木デザインコンペティション

#### 《人員確保での工夫・苦労》

性格の違う（多様性を持った）機関（本活動の場合、地域・大学・行政）が協働し、継続的な活動を行うためには、各機関が主体的に関わることが唯一の方法であると考えています。この「協働」プロセスを展開していく中で、相互に協力し合い、有機的な役割分担で活動を行うと、中核的人員は重要ではないように感じています。

ただし、それぞれの機関において、活動の参加について容認（後押し）をしてくれる環境づくりは重要であると考えています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

「正当な評価による報道」と「権威ある賞の受賞」。この2点の実現は活動資金の獲得にあたり大きなアドバンテージとなります。継続的な資金確保のためには、投資経費にプレミアムを持たせなければならず、地方部においてその実現性を鑑みると行政機関が最も可能性が高いものと考えます。

また資金繰りの安定のために、身の丈にあった活動ボリュームを維持し、できることを役割分担しながらやるという「ワーキングシェア」の理念は不可欠です。

表町の取り組みにおいては、活動に関わるすべての人の手のひら面積の和を活動ヴォリューム（建築面積）としてとらえ、それに見合うだけの資金を調達することとしています。

#### 【現場の声】

平成9年度の活動開始から10余年が経過しているが、一貫していることは、最も根本的な要素である「活動を楽しむこと、行うこと」について検討し、それぞれの機関が相互協力の精神を持ち、主体的に関わることでのみ継続的な活動が可能となることを確認していることです。

また、アカウンタビリティの徹底により、活動のあらゆる場面を公開し、情報提供を行っています。このことにより、活動のステップ毎に報道機関より記事としてPRされ、その記事によりプレイヤーのモチベーションがあがり、活動の大義が理解されるというルーティンが形成されています。

～長岡市栃尾支所建設課



雁木を題材にした小学校の総合学習